

墓石

墓石の価格は一般に情報があふく、購入にも不透明感がつきまといることが多かったが、最近では生協などでカタログやチラシで墓石の価格を明示するようになってきた。普通の商品のように、値段を比較しながら購入することができるようになった。その後、消費者から注目され始めた。

横須市の会社員Aさん(59)は昨年、千葉県内の公営霊園にある先祖代々の墓を新しく建て直した。

きっかけになったのは、地元で生協が明示していた墓石工事の一式費用。「墓石は、業者によっては値段の差があり、長い間決めかねていた」とAさん。8寸(約24センチ)角の相型二段墓を注文。事前の見積もり通り、工事代を含め160万円を支払った。

Aさんが利用したのは、コピーかながわ(横浜市)などが扱っている葬祭サービス

価格明示の動き

「はきげ」の墓石販売だ。墓所の面積に応じてお墓を建てた場合の価格を表示し、石も「高級白みかげ」といった抽象的な表現でなく産地や種類名を明示。その価格に含まれるサービス、含まれない内容も記してある。

例えば、4平方メートルの区画に、中国産・福清という石で石碑を、中国産・梁山という石で外柵を作った場合の相型二段墓の価格は、1メートル1000円。これにはカロート(墓石の下石室)、玉砂利、施工費が含まれ、文字彫刻料は

生協などカタログで

サービス内訳

産地や種類も

含まれていない」という具合だ。

カタログで価格を明示する試みはコピーかながわだけでなく、コピーかながわ(横浜市)や生協(東区)など、各地に広がっている。

一般に、墓石の価格がカタログやチラシで表示されることは少なく、消費者にはなかなかわかりにくい。

民間霊園の場合、開発に要した費用が墓石代金に転嫁されることも多いからだ。その結果、同一種類の同規格の墓石であっても霊園ごとに価格に違いが出るようになる。

このため、墓石の価格表の作成は事実上困難で、霊園のチラシは「区画××万円より」といった墓石代を掲載したものがほとんど。墓石の価格は大まかな目安が示されなかった。

しかし消費者にとって、価格は購入するかどうかの重要な決め手でもあり、「もっとわかりやすく」という声も高い。

こうした声をうけ、生協の

ほか、墓石業者の中にも価格表示に取り組みとろろが出てきた。ニチリョク(東京)は同社が開発・販売する霊園のチラシに、墓所の区画に応じて規格化した墓石の代金を明示。墓石を特別注文する場合として、産地代(永代使用料)とあらかじめ表示された墓石代金の合計で、お墓を施工できる。

生協の「はきげ」企画部長八木芳久さんは「墓石の価格を自由に比較、検討できるように、組合員からは好評」と話す。また、全国優良石材

店の会(全墓石、東区)会長の吉田剛さんは「消費者が納得したうえで契約できるように業界では取り組んできたが、今後さらに情報提供していく必要がある」と言う。

「値段と、その根拠がはっきりしない」と言われた墓石も、その販売のあり方が変わってきた。



墓石代(永代使用料)とは別に、墓石代を明示しているカタログやチラシ。二つした試みが広がって